

環境への配慮

http://www.nichirei.co.jp/report/2013/env/env_01.html ホーム > CSRレポート2013 > 環境のために

環境方針 生物多様性方針

ニチレイグループでは、グループ環境方針、グループ生物多様性方針を策定し、3つの重点課題に取り組んでいます。

[Web](#) 環境方針全文 生物多様性方針全文

中期目標と実績

* 中期目標(2010年度-2012年度)

地球温暖化防止および廃棄物削減についてはグループ全体の目標値を定め取り組んできました。

● 地球温暖化防止

グループ(国内)のエネルギー起源CO₂排出量
2012年度 2009年度実績比3%削減

- * 国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー
- * 購入電力由来のCO₂算出係数は2009年度固定

● 持続可能な資源循環の推進

食品工場、物流センターから排出される
廃棄物リサイクル率99%の達成・維持

* 2012年度実績

重点課題1 地球温暖化防止

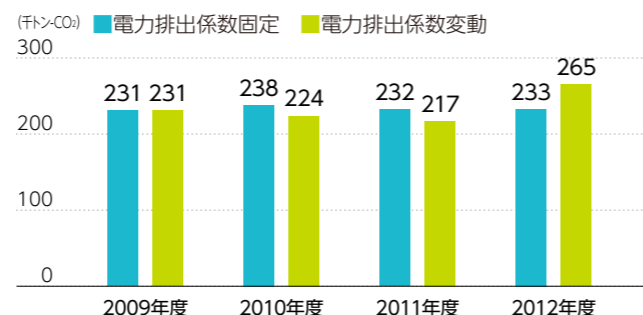
気候変動の影響を大きく受ける“食”に関わる企業グループとして工場や物流センターなどの事業所から直接排出されるCO₂の削減に取り組むとともに、事業内容とのかかわりを考えながら各事業会社が重点課題を設定し、サプライチェーン全体でのCO₂削減に取り組んでいます。

2012年度のグループCO₂排出量は、各事業所における省エネ、節電等の削減活動によるCO₂削減を、事業所の新設、生産量の増加などによるCO₂増加が上回ったことにより、2009年度比で0.6%の増加となり、目標である3%削減を達成することはできませんでした。しかしながら、2009年

度~2012年度まで継続稼働している事業所(既存事業所)では、3%以上の削減となっており、各事業所における削減活動は成果を上げています。一方、原子力発電所の停止により、電力使用1kWhあたりのCO₂排出量(電力排出係数)が増加したため、地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき算出したCO₂排出量は大幅に増加しました。

また、従業員の家庭における節電活動を促進するキャンペーンも2011年度に引き続き実施し、2年間合わせて約152kWhの電力削減を達成できました。

■ ニチレイグループCO₂排出量の推移



- ※1 電力排出係数固定: CO₂排出量算定のための算出係数を2009年度に固定した場合
- ※2 電力排出係数変動: 上記を地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき変動させた場合

※一部事業会社間の重複計上データがあり、過去年度データの修正を行っている。

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています

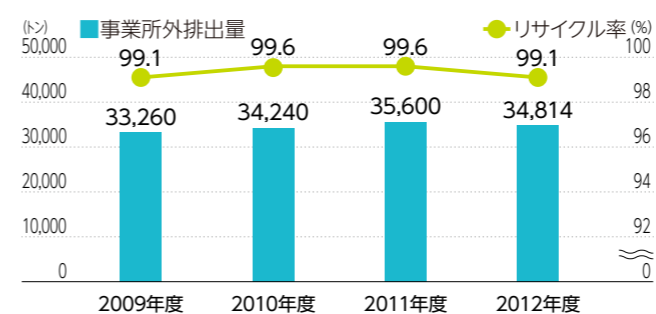
- Web** ▶環境方針 ▶生物多様性方針 ▶2020年度に向けた目標と重点課題 ▶環境マネジメント体制 ▶ISO14001などの認証取得
▶環境監査 ▶環境会計 ▶環境社内教育:CSRレポート説明会、環境展示会、環境講演会、環境e-ラーニングの実施、他 ▶環境事故、法令違反の状況

重点課題2 持続可能な資源循環の推進

地球上の資源を継続的に利用していくために、サプライチェーン全体での廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取り組んでいます。また、“食”とかかわる企業グループとして地球からの恵みである生物資源を効率的に無駄なく使うこと、使い切ることができなかったものも飼料や肥料などに再利用し循環させていくことにも注力しています。

各事業会社が、廃棄物の排出量削減およびリサイクル率の維持・向上を継続推進し、2012年度の事業所外排出量は34,814トンとなり、リサイクル率は99.1%となりました。現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

■ ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



重点課題3 自然との共生

ニチレイグループの事業は、豊かな地球からの恵みによって成り立っており、これは自然界の多様な生態系や生物種などによって維持されています。あらためてその重要性を再認識し、さらに取り組みを強化していくため、2010年度にグループ生物多様性方針を策定しました。今後も、原材料調達における周辺環境や生態系への配慮、食材を余すことなく使い切る、所有地周辺を中心とする自然保護活動、自然の大切さを伝えることなどに取り組んでいきます。

* 今後の目標

東日本大震災後のエネルギー政策の見直しにより、原発の稼働が不透明になり、火力発電が増えたため電力使用量を削減してもCO₂排出量が減少するとは限らない状況となっています。これを踏まえ、温暖化防止に関する次期中期目標策定に当たり、見直しを実施しました。電力使用量とCO₂排

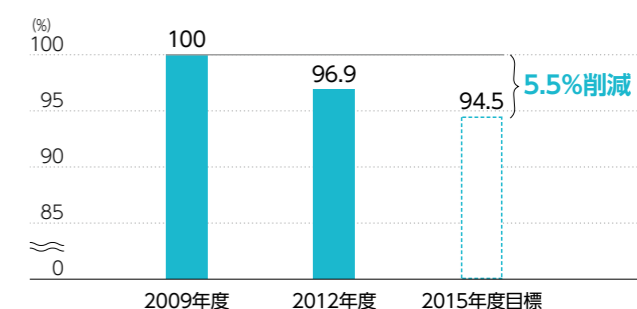
出量のトレンドが相反するため、電力排出係数を固定したCO₂排出量削減目標から電力使用量そのものの削減目標に変更しました。加えて、燃料由来のCO₂排出量とは、これまでの活動実績や使用状況が異なることから、それぞれに目標を設定しました。また、対象は比較可能な事業所ベースとし、新設事業所については、省エネ設備導入を推進するとともに、個別状況に合わせた目標を設定し効率化に取り組み、排出量の抑制を図ります。あわせて、サプライチェーン全体での排出削減に取り組み、社会全体での排出抑制に貢献していきます。食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率については99%以上の維持に継続して取り組んでいきます。

● 地球温暖化防止の2015年度目標(2013年度-2015年度)

電力使用量 : 2009年度比 5.5%削減
燃料由来CO₂ : 2009年度比 7.5%削減

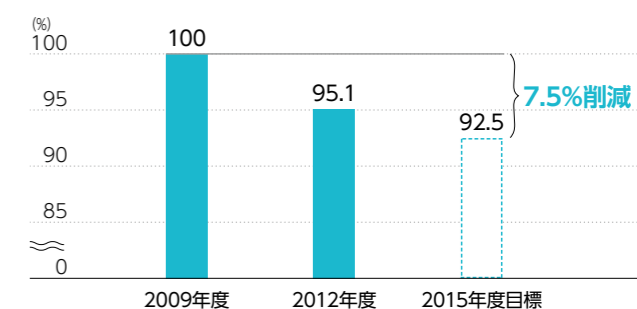
- * 国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー
- * 比較可能な期間内継続稼働事業ベース(廃止・新設等による増減は含めない)

■ 既存事業所電力使用量



※2009年度を基準年(100%)としている。
※新設事業所を含む総電力使用量は、2009年度:445GWh、2012年度:449GWh

■ 既存事業所燃料由来CO₂排出量



※2009年度を基準年(100%)としている。
※新設事業所を含む総排出量は、2009年度:40,540トン、2012年度:40,510トン